

農林水産研修所の移転について

－ 北海道のフィールドを活用した新たな研修の提案－

平成27年11月 北海道

提案に対する国の見解(ポイント)

(移転のメリットなど)

- 当該研修所は、人材育成を目的とした座学研修が中心であり、地域への経済波及など移転のメリットが想定しづらい
- 実地研修プログラム（フィールドワーク）のメリットについて、具体的な対応方針を示す必要がある

(研修生、講師の利便性の確保)

- 全国規模の集合研修という実施形態のため、日本各地から集まる研修生や、首都圏に多く在籍する研修講師の交通アクセス確保が必要
- 内部講師（本省職員）が講師全体の約6割を占めており、移転によって講師の確保が困難となる

北海道の考え方

- 座学に加え、生産現場に入り生産者と交流する実践的な研修スタイルの確立により地域の消費効果だけではなく、人的交流から派生する様々な効果を期待
- また、研修生の交流によって生まれる効果は、地域に留まらず広く全国に環流
- グローバル化の時代を迎え、日本最大の食料生産拠点である北海道の優良事例の横展開が必要
- 自然豊かな環境で、研修生のリフレッシュも期待

- 遠距離であることは克服し難い課題であるが、来年3月に控えた北海道新幹線の開業に加え、航空路線の充実が図られているところ
- 政府関係機関の移転が地方創生のための取組であることに鑑み、東京一極集中是正の前提に立ち、国が率先して地方への人の流れを作り出すことが肝要
- 一大生産地の北海道には、特にフィールドワークの講師に適した実践者が数多く在籍

北見市の本所と北斗市のサテライトを活用し、新たな効果を生み出す研修を実現

日本最大の食料生産拠点で、
ニーズに応じたフィールドワークを実現

■農林水産研修所(本所)＜北見市＞

- 遊休施設活用により、移転費用を抑制
- 北見市では大規模な農業経営が行われ、特にタマネギの生産量は日本一
- 北見市常呂地区はホタテ増養殖発祥の地であり一大生産地。また、オホーツク地域は、全国の森林認証面積の37%を占める日本最大エリア



旧北海学園大北見キャンパス

■農林水産研修所(サテライト)＜北斗市＞

- 北海道新幹線の開業効果を最大限に引き出すために、人やモノの交流拡大が必要
- 北斗市は本道の水田発祥の地。さらに道南地域は野菜、果樹、酪農など多彩な農産品目を有する一方で漁業や水産加工業についても盛んな地域。



北斗市農業振興センター

[農業] 実地研修（フィールドワーク）の重要性

○ 従来の座学中心の研修に加えて、フィールドでの実践者や実践例などを学ぶことにより、研修効果が一段とアップ。

現在の研修

+

フィールドワーク

→

期待される効果



職階に応じた研修

新任者研修

係長研修

管理監督者研修

能力向上のための研修

ビジョン・マネジメント
研修

農業者研修教育施設
指導職員新任者研修

農政企画職員研修

研修拠点周辺にある地域の
フィールドをフル活用

先進的な農業者をはじめ、農業法人
経営者や農業団体の運営者管理
者等の多彩な人材が身近に！

課題解決能力等の向上に生かせる、
現場の実践事例が身近に！

土や動植物、農林漁業の作業等
の機会が減少する中、食や農林漁
業との距離を縮める実践を関係者
をあげて実践！

フィールドを活かした
研修の充実

経営や組織マネジメントの
経験者から学び、併せて、
農業経営（家族経営・法人
経営）や協同組合組織の経
営事例を学ぶことが可能

現場の実践事例を通して、
課題設定から解決手法の組
み立て、実行、検証等を学
ぶことが可能。

併せて、フードアクション
ニッポンを実践



宿泊研修時の食事は
地域食材をフル活用

- ・米、小麦、いもなどの土
地利用型作物
- ・野菜や果実
- ・乳製品や肉類
- ・ほたてやかニなどの水産
物
- ・きのこや山菜

〔農業〕 地域の実践事例等を活用した新たな研修イメージ ①

－ 現行の「農政企画職員研修」を発展させた1週間～2週間の研修を想定 －

【研修の目的】

都道府県や農林水産省地方支分部局等において、食料・農業・農村施策に携わる職員を対象に、座学による国の施策や各都道府県の地域政策の理解と併せ、先進事例に関する現場での事例等を踏まえ、政策形成能力の向上に資する研修を実施。

< 研修対象 >

- 都道府県知事の推薦を受けた都道府県職員
- 農林水産省地方支分部局等の長の推薦を受けた職員

< 研修概要 >

- 座学とグループディスカッション
- ◎生産現場における課題解決に至る経過や効果の発現状況に関する調査
- ◎生産現場の事例を踏まえた地域課題の解決手法の提起（プレゼン）

< 研修環境 >

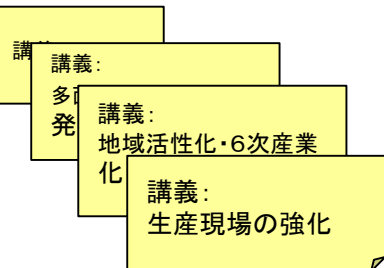
- 宿泊寮併設の施設での集合研修（北海道北見市、北斗市）
- ◎近隣する生産現場の視察、生産者等からの聞き取り調査

都道府県職員
地方農政局等職員

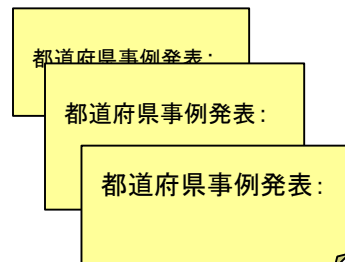
生産現場の課題解決事例を
踏まえた政策形成能力の向上

北海道、各県の
優良事例を全国
で横展開

講義



事例報告



現場の実践事例

生産技術・組織化

地域農業のシステム化

法人組織経営体の育成

担い手の育成

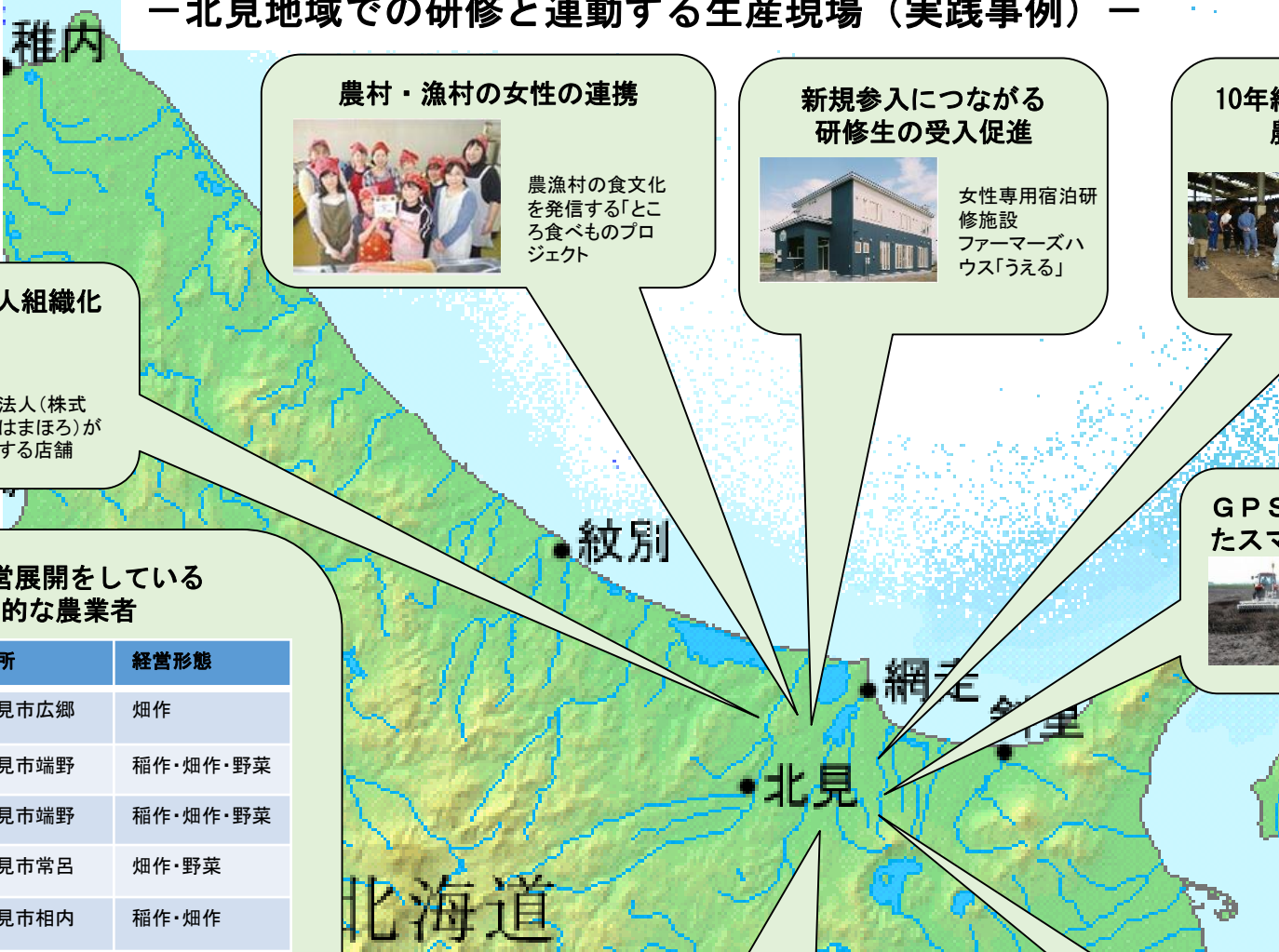
女性の経営参画支援

新規就農者の実践研修

農村振興

都市・農村交流

—北見地域での研修と連動する生産現場（実践事例）—



農村・漁村の女性の連携



農漁村の食文化を発信する「とこる食べものプロジェクト」

新規参入につながる研修生の受入促進



女性専用宿泊研修施設
ファーマーズハウス「うえる」

10年続くJAの新規就農者実践研修



完熟堆肥の作り方を学ぶ新規就農者

地域ぐるみで法人組織化



農業法人(株式会社)はまほろが運営する店舗

多様な経営展開をしている先進的な農業者

氏名	住所	経営形態
角田誠二氏	北見市広郷	畑作
伊藤美智子氏	北見市端野	稲作・畑作・野菜
小川吉猶氏	北見市端野	稲作・畑作・野菜
小野寺俊幸氏	北見市常呂	畑作・野菜
本田豊身氏	北見市相内	稲作・畑作
坂下一夫氏	北見市留辺蘂	畑作・野菜
那須美由紀氏	北見市常呂	酪農・畑作
宮下尚樹氏	北見市三輪	野菜・畑作

※地域の青年農業者の育成・指導に取り組む指導農業者(北海道認定)の一部を紹介

GPS・GISを活用したスマート農業の実践



レーザーレベラーを活用した大規模ほ場の均平化

農商工連携



合同会社びほろ笑顔プロジェクトの豚醤

薬用作物の機械化体系



センキュウの播種作業

地域の実践事例等を活用した新たな研修イメージ ③

— 北斗市周辺での研修と連動する生産現場（実践事例） —



「六輪村」(北斗市)
 「消費者と生産者の顔が見える農業」をめざして
 女性農業者を中心に展開する農産物直売、
 加工品販売、料理体験等の取組




道南地域の農業
 北斗市周辺の道南地域は、南北に長く気象
 や立地条件が異なることから、酪農、野菜
 栽培、稲作、花き、いも類、豆類など多様
 な農業が展開

地熱を利用したトマト
 栽培（森町濁川地区）



**多様な経営展開をしている
 先進的な農業者**


氏名	住所	経営形態
東寺百合子氏	北斗市	野菜、六輪村代表
落合修氏	北斗市	花き
山本隆久氏	北斗市	稲作・野菜
平野博章氏	七飯町	野菜
加藤寛喜氏	八雲町	稲作・野菜
南茂敏氏	知内町	稲作・野菜
木村秀喜氏	厚沢部町	稲作・野菜・畜産
仁木明氏	今金町	稲作・畑作
小笠原裕章氏	江差町	稲作・畑作
高松利彰氏	せたな町	稲作・畑作

※地域の青年農業者の育成・指導に取り組む指導農業士・
 農業士(北海道認定)の一部を紹介

J A新はこだて（北斗市）
 直売所「あぐりへい屋」を
 常設しているほか、
 地域の農産物加工品を開発



「函館酪農公社」
 北海道渡島地方の
 38戸の契約牧場の
 原料乳から牛乳・
 乳製品を生産。
 産地体験交流会など、
 乳製品づくり体験の受入




〔農業〕 大学や試験研究機関と連携した新たな研修イメージ ①

－ 現行の「農政企画職員研修」を発展させた1週間～2週間の研修を想定 －

【研修の目的】

都道府県や農林水産省地方支分部局等において、食料・農業・農村施策に携わる職員を対象に、座学による国の施策や各都道府県の地域政策の理解と併せ、先進事例に関する現場での事例等を踏まえ、政策形成能力の向上に資する研修を実施。

< 研修対象 >

- 都道府県知事の推薦を受けた都道府県職員（普及指導職員を含む）
- 農林水産省地方支分部局等の長の推薦を受けた職員

< 研修概要 >

- 座学と有識者からの聞き取り
- ◎大学や試験研究機関等における研究や調査等の実績の文献検索及び関係職員からの聞き取り
- ◎調査研究レポートの取りまとめ

< 研修環境 >

- 宿泊寮併設の施設での集合研修（北海道北見市、北斗市）
- ◎近隣する大学や試験研究機関、普及指導センター等への取材

都道府県職員
地方農政局等職員

大学や試験研究機関等の取材を通じた
知見の蓄積と活用手法の習得

- ・地域の農林水産業における課題解決手法の習得
- ・北海道を起点としたネットワークづくり

講義

講義：
多面的機能
の発揮

講義：
地域活性化・
6

講義：
生産現場の
強化

有識者の試験研究
実績等



大学・試験研究機関等への取材

大学等

北見工業大学

東京農業大学

道立農業
大学校

試験研究機関

（地独）北海道総合研究機構北見農業試験場

（地独）北海道総合研究機構
北見農業試験場/網走水産試験場

道立オホーツク圏地域食品加工技術センター

ホクレン農協連畜産技術実証センター

網走市水産科学センター

普及指導等

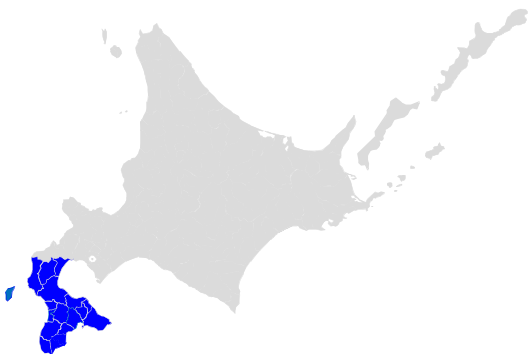
網走農業改良普及センター

網走家畜保健衛生所

—北見地域における大学・試験研究機関の集積状況—



－北斗市周辺における大学・試験研究機関の集積状況－



右記のほか周辺の主な試験研究機関

機関名	所在地	主な実施事業
厚沢部町農業活性化センター	厚沢部町	農業技術指導、試験栽培、土壌診断
厚沢部町農業振興公社	厚沢部町	栽培試験、農業研修等の実施
せたな農業センター	せたな町	試験栽培・実証展示、土壌分析



「北斗市農業振興センター」
(サテライト誘致先施設)

「道南農業試験場」
(北海道立総合研究機構)

「渡島農業改良普及センター」
(普及指導センター)

「函館市国際水産・海洋総合研究センター」
北大大学院をはじめ研究機関や民間企業が入居
水産・海洋分野の研究開発・産学官連携の拠点

「北海道大学水産学部・
大学院水産科学院」

「はこだて未来大学」
産官学の連携に積極的

■ 北海道での研修実施のメリット

全国一の森林面積を有する豊富な森林資源

北海道の森林は、約550万ヘクタールの面積を有し、全国の森林面積の約4分の1を占めるとともに、気候が温帯から亜寒帯への移行帯に属しており、北海道特有の多様な樹種からなる森林が作りあげられている。

実績を伴って進み始めている森林資源の循環利用の推進

道内では、戦後植林されたカラマツやトドマツなどの人工林資源が充実しており、森林から産出される道産木材は、木造公共建築物や木質バイオマスエネルギー利用などに積極的に活用されており、道産木材の供給率は56%（H25）と全国の国産材自給率29%を大きく上回っている。



多彩に展開可能な研修プログラム

北斗市及び北見市には、国や道の林業関係機関が隣接しているとともに、大学や試験研究機関等とも連携しながら、多彩な研修プログラムを展開することが可能。

[北見市]

北海道オホーツク東部森林室（北見市）
東京農業大学生物産業学部（網走市）



[北斗市]

北海道渡島東部森林室（函館市）
道総研林業試験場道南支場（函館市）



■ 想定される実務研修プログラム例

●北限のブナ林に関する現地調査

道南地域は、わが国を代表する落葉広葉樹である貴重なブナ林の北限であり、その保全・再生に向けて様々な取り組みが行われている。

●高性能林業機械に関する実地研修

道内では、高性能林業機械の導入が積極的に進められており、森林作業現場で高性能林業機械を目にすることは当たり前となっている。特にオホーツク地域は、最新の高性能林業機械を導入し、作業システムの効率化に取り組んでいる林業事業者が多く存在している。

●溪流生態系保全に配慮した森林づくりの取り組み

近年、地域住民等からの溪流生態系保全への配慮に関する要望が高まってきていることから、民有林と国有林が一体となって溪流生態系保全への配慮に取り組んでいる。

（例：知床世界自然遺産（斜里町）での治山ダムの改良等）

[水産業] 水産業分野における実地研修プログラム

■ 北海道での研修実施のメリット

全国一の漁業生産量・生産額

海面漁業・養殖業生産量は128万トンで全国の約1/4、水産加工業製造品出荷額は6,470億円で全国の約1/5(平成25年)

充実した試験研究機関等

北海道大学(水産学部)や(独)水産総合研究センター 北海道区水産研究所、(地独)道総研水産研究本部など水産に関する専門の研究機関

多彩に展開可能な研修プログラム

太平洋、オホーツク海、日本海の3つの海に囲まれ、それぞれの海域の特性に応じた漁業が展開

■ 想定される実務研修プログラム例

【北見市】

—地域資源循環型の生産性の高い優良事例を見学、体験—

北見市及びその周辺地域では、ほたて貝桁網漁業やさけ定置網漁業などが行われており、オホーツク総合振興局内の漁業生産量・額は全道14振興局内で最高、オホーツク海海域の漁協組合員1人当たりの漁業生産額は、全道平均の2.7倍(平成25年)となっている。

また、生産量・生産額とも過半を占めるホタテガイは、EUへ輸出されているほか、貝殻は土壌改良材に加工されて農業に利用されるなどリサイクル率はほぼ100%である。

近隣には、東京農業大学生物産業学部アクアバイオ学科や北海道立総合研究機構水産研究本部網走水産試験場、網走市水産科学センターが立地



【北斗市】

—多様な生産現場を見学、体験—

北斗市及びその周辺地域では、日本海、津軽海峡、太平洋と特性の異なる3海域において、ウニやコンブ等の採介藻漁業、ホタテガイ等の養殖、イカ釣り、スケトウダラ刺し網、マグロー一本釣りなど多種多様な漁業が行われており、様々な生産現場の理解を深めることが可能

近隣には、北海道大学水産学部や北海道立総合研究機構、公立はこだて未来大学のほか、6つの企業の研究機関が集積した「国際水産・海洋総合研究センター」があり、港湾機能と一体となった水産・海洋研究ゾーンを形成



■研修生・講師の受入

◆施設規模

- 旧北海学園大学北見キャンパス
 - ・8階建て延べ床面積7,500㎡の校舎3号館をはじめ各種施設を擁し、完全移転にも十分対応可能な規模

◆研修生・講師の宿泊

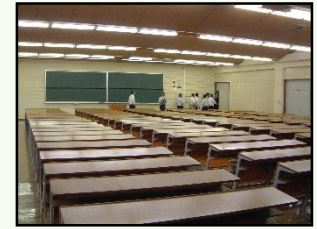
- 旧北海学園大学北見キャンパス
 - ・ユニットバス・トイレやキッチン完備の居室……現在17部屋（一室2～3名利用で36名宿泊可能）
 - ・数多くある30㎡程度の部屋を一室2名の宿泊部屋に改装……さらに150名の宿泊が可能
- 市内のビジネスホテル……全国チェーンをはじめ低廉なホテルが多く所在（一泊朝食付4,000円程度～）

◆食事の提供

- 施設内厨房を利用した調理（大手給食業者などへの委託）……現在と同価格帯での提供が可能
（※地元食材を利用したメニュー提供により、地域理解を深めていただく機会として活用）

◆研修所職員の住宅確保

- 市内に財務局所管の合同官舎が所在……「小泉住宅」21棟170戸（現在空室あり）
- 首都圏と比較し低廉な民間賃貸住宅……（めやす：2LDK～4LDKの平均→5.5万円～6万円程度）



■交通アクセス

◆女満別空港～主要空港間の運行状況

- 東京（羽田）5便（1時間50分）
- 名古屋（中部）1便（2時間5分）
- 大阪（関西）1便（2時間25分）
- 大阪（伊丹）1便（2時間10分）※夏季のみ
- 札幌（新千歳）7便（50分）

◆女満別空港～北見駅の連絡バス運行状況

14本（45分）

◆北見駅～施設最寄り間の市内循環バス運行状況

21往復（11分）

■研修参加費用（概算）

◆一週間（月～金）の研修に東京から参加の場合

- 施設内に宿泊する場合…… 55,000円程度
- 市内ホテルに宿泊する場合… 80,000円程度

（試算条件）

- ※研修施設利用料は見込んでいない（要調整）
- ※交通費、宿泊費、食費、雑費の概算
- ※日曜日発→土曜日帰着
- ※暖房費など季節変動あり
- ※航空賃はJAL「特割3」をベースに試算

■研修生・講師の受入

◆受入施設

- 北斗市農業振興センター
 - ・新函館北斗駅から約6kmの立地。200名収容×1、30名収容×2の研修室を備えた市有施設
 - ・道南の地域特性を活かした実地研修の受入など、農林水産研修所のサテライト施設として活用

◆研修生・講師の宿泊

- 市内のホテルを利用……施設周辺に90名収容のホテルが2軒所在（一泊2食付6,500円～）
- 新駅前ホテル建設計画……最大で400名収容規模のホテルが開業予定（平成29年2月）

◆食事の提供

- 研修の実施に合わせ、市内業者による弁当により対応（1食あたり500円～800円程度）
（※地元食材を利用したメニュー構成により、地域理解を深めていただく機会として活用）



■交通アクセス

◆北海道新幹線の運行計画

- 東京10往復（4時間9分）
 - ※仙台から（2時間37分）
 - ※盛岡から（1時間53分）

◆新函館北斗駅～農業振興センター間路線バス

17便程度の予定（15分）

（参考）

- 函館空港～主要空港間の運行状況
 - ・東京（羽田）8便（1時間30分）
 - ・大阪（伊丹）2便（1時間35分）
 - ・名古屋（中部）1便（1時間25分）
- 函館空港～農業振興センター間路線バス（約1時間10分）

■研修参加費用（概算）

◆一週間（月～金）の研修に東京から参加の場合

- 市内ホテルに宿泊する場合… 89,000円程度

（試算条件）

- ※研修施設利用料は見込んでいない（要調整）
- ※交通費、宿泊費、食費の概算
- ※日曜日発→土曜日帰着
- ※暖房費など季節変動あり